

電磁気学 II 第 1 回定期試験 問題用紙

対象クラス：3300 令和 2 年 7 月 16 日 (木)12 限実施

担当：宮田 (尚)

以下の各問い答えよ。ただし、解答を導出するために必要な過程を示すとともに、最終的な解答は単位を付し導出過程などと区別して解答用紙に記入すること。単位は SI 単位系を用いて表記すること。導出過程が示されていないものや、単位が記載されていないなど、導出過程と解答の区別があいまいなものについては採点対象としない。また、特に断らない限り媒質は真空とし、真空の誘電率を ε_0 、真空の透磁率を μ_0 とする。

- 以下に示す物理定数は電磁気学を修めた者であれば常識的に覚えていなければならない数値である。それぞれの値を示せ。
 - 真空の誘電率 ε_0 (基礎：5 点)
 - 真空の透磁率 μ_0 (基礎：5 点)
 - 電子の電荷 e (基礎：5 点)
 - 電子の静止質量 m (基礎：5 点)
- $AB=BC=a$ 、 $\angle B = 90^\circ$ の直角二等辺三角形 ABC がある。いま各頂点に点磁荷 m が存在するとき、以下の各問いに答えよ。
 - 頂点 B に存在する点磁荷にはたらく力 F_B を求めよ。 (基礎：5 点)
 - 頂点 A に存在する点磁荷にはたらく力 F_A を求めよ。 (基礎：10 点)
 - 直角三角形 ABC の内接円の半径 r を求めよ。 (基礎：5 点)
 - 頂点 A に存在する点磁荷が直角正三角形 ABC の内心につくる磁界 H_A を求めよ。 (基礎：10 点)
- 図 1 に示すように、 xy 直交座標系において、同量異符号の点磁荷 $\pm m$ が距離 l に固定された磁気双極子が存在する。このとき以下の問いに答えよ。
 - 点 A に存在する磁荷 $-m$ が点 $P(x_0, y_0)$ に作る磁界 H_1 を求めよ。また、 H_1 を x 方向成分 H_{x1} と y 方向成分 H_{y1} に分解せよ。 (基礎：4 点)
 - 点 B に存在する磁荷 $+m$ が点 $P(x_0, y_0)$ に作る磁界 H_2 を求めよ。また、 H_2 の x 方向成分 H_{x2} と y 方向成分 H_{y2} に分解せよ。 (基礎：4 点)
 - 点 P での磁界 H の x 方向成分 H_x と y 方向成分 H_y をそれぞれ求めよ。 (基礎：4 点)
 - 磁気双極子モーメント M の大きさと方向を求めよ。 (基礎：2 点)
 - 点 P が原点 O より十分遠方にあると仮定すると、 $\sqrt{(x_0 - l/2)^2 + y_0^2} \simeq \sqrt{x_0^2 + y_0^2}$ 及び $\sqrt{(x_0 + l/2)^2 + y_0^2} \simeq \sqrt{x_0^2 + y_0^2}$ と近似できる。このことを用いて (c) にて得た磁界 H_x 及び H_y を簡略化せよ。 (応用：4 点)
 - y 方向に一様な磁界 H_0 が存在するとき、磁気双極子にはたらくトルク T を求めよ。 (応用：2 点)
- 磁化されていない強磁性体に磁界 H を外部から印加し、強磁性体内部での磁束密度 B を観測すると、図 2 に示すような結果が得られた。このとき、図中の行程 1: 点 O \rightarrow 点 P_1 、行程 2: 点 $P_1 \rightarrow$ 点 P_2 、行程 3: 点 $P_2 \rightarrow$ 点 P_3 、行程 4: 点 $P_3 \rightarrow$ 点 P_4 、行程 5: 点 $P_4 \rightarrow$ 点 P_5 、行程 6: 点 $P_5 \rightarrow$ 点 P_6 、行程 7: 点 $P_6 \rightarrow$ 点 P_1 の 7 つの行程に着目して、測定結果を説明せよ。 (基礎：14 点)
- 強磁性体、弱磁性体、常磁性体、反磁性体の 4 つの磁性体の性質を、「比透磁率 μ_s 」と「磁化率 χ 」という 2 つの語句を両方用いて説明せよ。 (基礎：16 点)

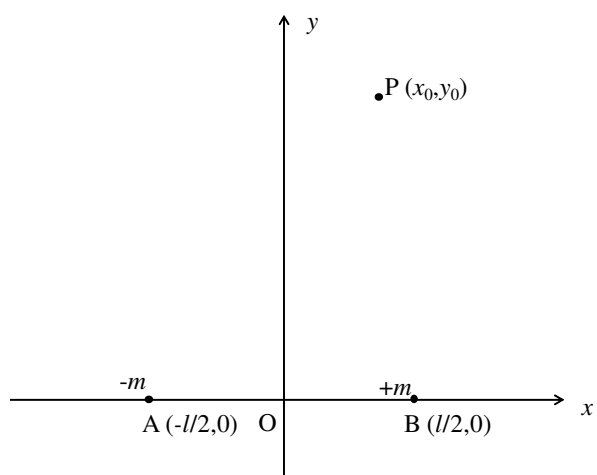


图 1:

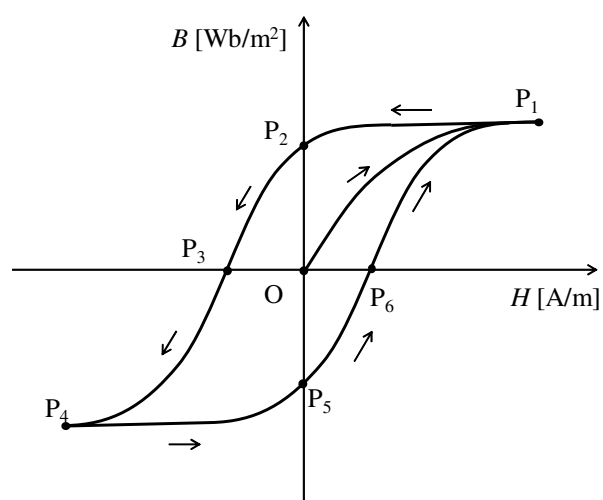


图 2: